

接着重ね材の日本農林規格に規定された接着剤の評価基準

| 項目 | 試験 | | 樹種 密度 | 試験体採取 | | 基準値 | | 使用環境 C |
|--------|----------------------|-----------------|----------|---|--|-----------------------|----------------------------------|--|
| | 名称 | 参考規格 | | 試験体形状 | 個数 | 評価項目 | 参考基準 | |
| 接着強さ | 常態圧縮せん断試験 | 接着重ね材のJAS規格 | 針：中＋低 | JASブロックせん断 (面積25～55×25～55mm) | 3プライ接着重ね材 断面105×315又は120×360、10体から両端から各4接着層計40接着層 | せん断強さ 木破率 | 接着重ね材のJAS規格 | 密度ごとに、せん断強さ及び木破率の基準値にともに適合する試験片数が、全試験片数の90%以上であるときは合格とする ・中密度：強さ7.2N/mm ² かつ木破率65%以上 ・低密度：強さ5.4N/mm ² かつ木破率70%以上 |
| 耐水性 | 煮沸剥離試験及び減圧加圧剥離試験(2回) | 接着重ね材のJAS規格 | 針：中＋低 | 3プライ重ね材 105×315×75mm 又は120×360×75mm | 接着重ね材10体から各1体採取(10体×2接着層×2分割=40試験片) | 剥離率 | 接着重ね材のJAS規格 | 試験片毎の、剥離率が全体で10%以下、剥離長さが1接着層で1/4以下 並びに密度ごとに、剥離率及び剥離長さの基準値にともに適合する試験片数が、全試験片数の90%以上であるときは合格とする |
| 耐クリープ性 | クリープ試験 | ASTM D2559-12 | 高密度材 | 多層接着層試験体 47.7×50.8×276.22mm | 2つの条件について2体ずつ、計4体 | 変形量 | CSA O112.9-10 § 4.10.1 | 断面ごとの平均変形量が0.25mm以下。かつ、全断面の平均変形量が0.05mm以下。かつ、試験体4体全てが破壊しないこと。 |
| | | EN 15416-2:2007 | | 多層接着層試験体 48×50.8×133.6mm | 3条件を順に6体 | | prEN 15425 EN 301 EN 15425 | 全断面の平均変形量が0.05mm以下。かつ、試験体6体中、5体が破壊しないこと。 |
| 耐熱性 | 加熱圧縮せん断試験 | JIS K6831 | 高密度材 | ブロックせん断 | 1条件3体×4個を2条件(計24片) | 所定温度におけるせん断強度残存率(木破率) | API耐火性能検討委員会平成16年度報告 | 100℃のせん断強さが、常温時のせん断強さに0.45を乗じた数値以上。 |